



中国西南民族史

2. 秦漢～魏晉南朝： 西南夷の「発見」と南中社会の成立④



夷人と南中大姓(『華陽国志』による)

- 夷人「大種を昆といい」(=漢代の昆明人)
「小種を叟という」
- 弁が立ち種人を屈服させられる者を「耆老」といい、これが主(=夷帥)となる
- 論議するときに物にたとえるのを好み、これを「夷経」という
- 今では「南人」(南中の漢族移民)の教養ある人も半ばは「夷経」を引用する

(史料2.10)



「夷人」と「南人」の密接な関係

- 「夷と姓をなす」を「**違耶**」という
- 「諸姓」を「**自有耶**」という
- 「夷と非常に厚い者」を「**百世違耶**」という



- 夷人が罪を犯した「**違耶**」をかくまったり、仇討ちをしたりする
- 南人が軽々しく「**禍変**」(反乱)を起こすのは、こういう関係に頼ることができるからだ



夷人の多くは漢人風の姓名をもつ

- 「越雋叟帥高定元」
- 「夷帥劉胄」
- 李叡の遑耶「五茶夷帥于陵承」 など
 - 「大姓」そのものが夷人／夷人を含む という説もある(高定(元)は大姓? 夷帥?)
 - 『華陽国志』も両者を明確に区別していない



- 「夷人」と「南人」の両者が混在する形で当時の「南中社会」は構成されていた



爨(さん)氏の台頭

- 『華陽国志』南中志: **建寧郡の大姓**
- 東晋～宋代に曲靖地区(雲南東部)で強大化
→ 昆明地区も併呑

爨



爨宝子碑(405) (小爨碑)

- 「晋故振威将军建宁太守爨府君之墓」
- 乾隆43(1778)出土
- 雲南省曲靖市の
曲靖第一中学に保存





南環寶



君諱寶子字寶子

發自天然冰潔蘭

閨庭拙警侯駕朝

得可春秋廿三窺

求顯勿翦其辭曰

山嶽吐精海詛階

流芳宮宇戮刃循

將賓乎王鳴鸞紫



「太亨四年」

碑署太亨四年乙巳，實晉安帝義熙元年（公元405年），按《晉書》，元興元年三月，桓玄矯詔自爲丞相，改元大亨；次年十一月，玄篡位稱帝，改元永始，又次年，馮遷誅玄，安帝復位，仍稱元興三年。次年乙巳，改元義熙。此碑僻處辺遠，或改元之詔未至，故仍用大亨年号耳。

（孫太初《雲南古代石刻叢考》）





爨龍顏碑(457 (大爨碑))

- 「宋故龍驤將軍護鎮蛮校尉寧州刺史邛都縣侯爨使君之碑」
- 曲靖市陸良県薛官堡に現存
- 碑陰には当時の寧州の官員(爨氏が任命した)の名が列挙されている



话费充值站

中国移动
充值 选号 售卡



露丝发廊

理发 染发 烫发 护发 美甲 美容

推

推

文物保护单位
UNESCO
WORLD
HERITAGE

全国重点文物保护单位

爨龍顏碑

中华人民共和国国务院
一九六一年三月四日
云南省人民政府立



燕龍頰碑

亭

卓

尔







野
登
子
文
記

邑
於
燕
四
氏

人
樹
空
九
世

軍
亭
州
夫
史

書
之
法
孫
監

心
茂
當
朝
靖



蜀の滅亡後

- 中国は魏(晋)－呉対立の形勢
- 南中は魏に属し, さらにその南の交趾(今のハノイ)に影響を及ぼす



- これを機に南方へ発展しようとする魏と呉とのあいだで交趾の争奪戦

→ 南中大姓が交趾に出征する



寧州の成立→南夷校尉→寧州

- 太康元年(280)庾降都督を寧州に改める
 - 治所は晋寧
 - 管轄下に建寧・興古・雲南・永昌の4郡
 - 朱提・越嶲・牂柯の3郡は引き続き益州所轄
- 太康3年(282)寧州を廃し, 郡を益州に返して南夷校尉を置く(全国で州の軍権を奪う動きの一環)
南中七郡の軍事を統領する
- 太安元年(302)寧州を復置



西晋中期以降(3世紀末～6世紀)

- 中原の混乱(八王の乱／永嘉の乱)
→ 支配力の後退・分裂状態(史料がほとんど無い!)

「晋民或いは交州に入り, 或いは永昌・牂柯に入り,
半ばは亦た夷の困虜とする所と為る」(南中志)

→ 僰人の移動と関係?

(方国瑜・林超民らはこれを僰人の移動の論拠とする)

(ただし「晋民」は通常漢人を指す)



六朝後期の雲南地区

- 雲南東部：爨氏
 - 曲靖・陸良・昆明などに同族の支配者
 - 南朝の刺史・太守などを自称（実質は世襲）

- 雲南西部：「白子国」（張氏白子国）
 - 白崖（大理州弥渡）を中心とする政権
 - またの名を「建寧国」



『爨龍顔碑』①

「君諱龍顔，字仕徳，建寧同樂県人。其先少昊顓頊之玄胄，才子祝融之渺也。……故乃燿輝西岳，霸王郢楚，子文諂徳於春秋，斑朗紹縦於季葉。陽九運否，蟬蛻河東，逍遙中原。斑彪刪定『漢記』，斑固述脩『道訓』，爰暨漢末，菜邑於爨，因氏族焉。……」

- 爨氏の祖先は顓頊で、春秋時代の楚国を輔けた
- のち家運が傾いて河東から中原へ移った
- 斑彪や斑固は彼らの先祖
- 漢末に爨の地に移住，爨氏を名乗るようになった



『爨龍顏碑』②

「……郷望標於四姓，邈冠顛於上京。瑛豪繼體，於茲而美。祖**晋寧、建寧二郡太守**、龍驤將軍、寧州刺史。考龍驤輔国將軍、八郡監軍、**晋寧、建寧二郡太守**，追諡寧州刺史、邛都梟侯。金紫累跡，朱黻充庭。君承尚書之玄孫，監軍之令子也。……」

- 祖先は晋寧・建寧の太守を歴任
- 「寧州刺史」「八郡監軍」：権勢は南中全体におよぶ



『爨龍顏碑』③

「……歳在壬申，百六遘豊，州土擾乱，東西二境，凶豎狼暴，緬戎寇場；君収合精鋭五千之衆，身伉矢石，撲碎千計，肅清辺嶠。君南中磐石，人情歸望，遷本号龍驤將軍、護鎮蛮校尉、寧州刺史、邛都県侯。……」

- 壬申(432)の戦役で軍功をあげた
- 「東西二境」:唐代史料にいう「東爨」「西爨」を指すという説もある



『爨龍顏碑』碑陰銘(冒頭部分)

府長史建寧爨道文

司馬建寧爨德泯

錄事參軍武昌郡劉觀

功曹參軍建寧孟慶倫

倉曹參軍建寧爨碩登

戶曹參軍建寧周賢

中兵參軍鴈門郡王令文

府功曹建寧爨毅

主簿建寧趙道才

別駕建寧爨敬祖

治中晉寧趙世伐

主簿建寧爨德融

主簿建寧孟叔明

西曹益寧楊琮子

西曹晉寧路雄

鎮蠻長史建寧爨世明

司馬建寧爨順靖

錄事參軍建寧毛瑋子

……



張氏白子国

(史料2.13→詳細は後述)

- 唐代の白蛮=元代の僰人=現在の白族との関連で語られる
(中国学会で「僰人」が重要視されるのはこのため)
- 「建寧国」の名: 中原の乱を避け流入した漢人が滇池地区(=建寧郡)経由で大理地区へ?
(その中に「僰人」が含まれた可能性?)
- 問題点: 元代以降の史料にしかでてこない
(→南詔国=蒙氏への遜位伝承)



益州郡·成都

巴郡

犍为郡

越嵩郡
(邛都)

朱提

会無

牂牁

弄棟·青蛉

味县

白子国?

建寧郡

邪龍



「大姓」から「蛮」へ

- 鬻氏・白子国ともにその先は漢人,との伝承
- 魏晋～南北朝期には「大姓」として扱われる



- 隋唐時期には鬻氏は「西鬻蛮」
 洱海地区の住民は「西洱河蛮」と
 蛮夷(非漢民族)として扱われるようになる



流入漢人の「夷化」?

- 「夷化」: 少数民族に同化して漢文化を失う?
 - 同地域で漢人は圧倒的に少数
 - 南北朝の混乱で中原王朝と連絡が取れない
 - この地で生きていくために現地の文化を受容
 - 「漢化」が相対的概念であることを示す好例?
- いかに少数とはいっても
統治地位にあるものが簡単に同化されるか?
(後代の北方遊牧民の「漢化」とは状況が違う)



流入漢人の「夷化」?

- 「本来の文化は保持しつつも、中原との間に格差を生じた」可能性

※「漢」(華)／「夷」の判断→つねにその当時の中原文化を基準とする

※六朝時代→中原の漢文化に大変化が生じた時期でもある

(「漢民族はいったん滅びた」という研究者もいる)



「大姓」から「蛮」へ

- 爨氏:「大姓」 (『華陽国志』)



「諸爨・氏」(『南齐書』)



「西爨蛮」(『隋書』『旧唐書』『新唐書』)

- 南朝の支配下 → (南齐時代はほぼ放置状態)
→ 梁 → 西魏・北周 という
南中を「領有」する政権の推移もこれに影響か